

武井昭先生、山崎益吉先生、木暮至先生、 三浦達司先生、石井満先生、石井伸男先生 退職記念号発刊によせて

高崎経済大学学長 吉田俊幸

武井昭先生、山崎益吉先生、木暮至先生、三浦達司先生、石井満先生、石井伸男先生の6名の先生が定年退職を迎える。6名の先生は、いずれも研究・教育面で素晴らしい業績と成果をあげておられると同時に、高崎経済大学への在籍年数も長く、学長、学部長、図書館長、学生部長等の要職を歴任されました。50周年を迎えた高崎経済大学の発展を支えた先生方でもあります。6名の先生が定年退職されることは、大学の研究教育にとって大きな損失であり誠に残念ではありますが、今後も多くの先生が特認教授、非常勤講師として本学の教育にご協力、支援をして頂くことになっています。6人の先生方の今後の研究面等でのますますの発展を期待するとともに我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。

武井昭先生は、府立三国ヶ丘高校を卒業され、昭和37年に高崎経済大学に入学された高崎経済大学の第5期生であります。高崎経済大学を卒業後、早稲田大学大学院経済研究科で理論経済学を専攻されました。修士課程修了後、昭和44年4月より高崎経済大学経済学部経済学科の助手として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は39年という長きにわたり、積極的な態度で研究と教育にあたられ、また、附属産業経済所長、学生部長、評議員等を歴任され、大学の発展のために多大なご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

先生は、経済学部では「社会経済論」、「社会保障論」、「外書講読」、「演習」等を担当され、大学院経済・経営研究科の前期課程社会経済研究と演習、後期課程では、「社会経済特別演習」と「社会経済研究指導」を担当されました。さらに、地域政策学部では、「豊かな社会と生活の質」及び「福祉経済学」を担当されました。産研では先生が中心となって幾つかの共編著をまとめらると

ともに『大学と地域貢献－地方公立大学府県付設研究所の挑戦』を編集されました。また、経済学部の大学G Pでは、その推進の中心的な役割を果たされ、4冊に及ぶ『地場産業』シリーズをまとめられるとともに各種のシンポジウムを企画されました。さらに、高崎経済大学50周年に当たっては、学生部長、実行委員会委員として50周年の各種行事の成功と、『高崎経済大学50年史』編集委員長として、その編集、刊行にご尽力をして頂きました。以上のように先生は、50周年記念事業等の遂行には多大な貢献をなされました。改めて、先生の多方面でのご奮闘、ご尽力に対して、感謝の念を捧げたいと思います。

また、学会活動では経済社会学会、日本経済政策学会、社会経済システム学会等、7つの学会に所属し、精力的で独創的な研究活動を展開されました。その成果は『現代社会保障論』、『生活と福祉の社会経済学』、『現代社会経済システム』等の6冊の単著と5冊の共編著、28の共著、他、多くの学術論文等に結実しています。先生『『経済』は、『社会に埋め込まれた済』でしかないという視点から現代経済を捉え直すこと』を目指して現代社会経済システム学の構築を目指して精力的に研究・教育を進められてきました。

さらに、社会活動、地域貢献活動では群馬県、高崎市他で多くの各種委員会委員を歴任されました。地域社会にはなくてはならない存在でした。また、究禅会という会を主催され、仏教と経済学との統合をめざされました。

気さくな性格と誰でも受け入れる幅広い度量さらに深い学識により、多くの学生、社会人から慕われ、先生の研究室は人の出入りが途切れることがない状況にあり、梁山泊ともいえる状況でした。ご退職後も特認教授として学生指導をお願いすることになりますが、我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しています。

山崎益吉先生は、群馬県立富岡高校を卒業され、昭和36年に高崎経済大学に入学された高崎経済大学の第4期生であります。高崎経済大学を卒業後、青山大学大学院経済研究科で経済史を専攻されました。修士課程修了後、昭和44年4月より高崎経済大学経済学部経済学科の助手として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は39年という長きにわたり、旺盛な研究活動と温厚な教育に努められ、また、19代学長、附属産業経済所長等を歴任され、大学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

とくに、19代学長として地域政策学部の創設にご尽力され、2学部時代の大学運営の基礎をきずかれました。先生のご尽力を抜きには、現在の高崎経済大

学の現在の発展がなかったと思います。先生の大学での様々な貢献に改めて深く感謝を致します。

先生は経済学部では「日本経済思想史」、「経済思想史」、「経済学方法論」、「演習」を担当され、大学院経済・経営研究科の前期課程では、「日本経済思想史研究」と「日本経済思想史演習」を担当されました。学会活動では社会経済学会、経済学史学会、日本経済思想史研究会、横井小楠研究会等、7つの学会に所属し、精力的で着実な研究活動を展開されました。その成果は『横井小楠の社会経済思想』、『横井小楠と道徳哲学』『戦後日本の経済思想—経済主義を超えて』等の11冊の単著と23の共著、多数の学術論文に結実しています。先生の研究は「天威から解放された人間本姓の本来の相の限界を提示しつつ、経済主義克服の道」を追求され、多くの研究成果をあげてられました。とくに横井小楠を発掘し、その体系的な研究は高く評価されています。今後も先生の研究が益々、発展されることを期待しております。

さらに、社会活動、地域貢献活動では群馬県、高崎市他で多くの各種委員会委員を歴任されてきました。また、先生の人徳と幅広い教養により多くの学生や社会人から慕われています。これも、先生の研究、思想に裏付けられた実践活動が多くの人々の共感を受けたからだと思います。ご退職後も特認教授として学生指導をお願いすることになりますが、我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しています。

木暮至先生は、群馬県立前橋高校を卒業され、昭和41年に早稲田大学商学部を卒業され、同大学院修士課程、博士課程で経営学、経営管理論を専攻され、平成17年2月には博士（商学）を取得されました。博士課程在学中、昭和46年5月より高崎経済大学経済学部助手として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は36年11ヶ月という長きにわたり、旺盛な研究活動と温厚でやさしい教育に努められ、また、第24代学長、学生部長、経済学部長、附属産業研究所所長等を歴任され、大学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

先生は平成8年より平成19年7月までの11年4ヶ月にわたって経済学部長、学長、学生部長として大学運営と発展のためにご貢献されました。この期間は、高崎経済大学が2学部となり、大学院を設置する等、急速に発展した時期です。先生のご尽力とご貢献を抜きに本学の発展がなかったと思います。先生の大学

での様々なご貢献に改めて深く感謝を致します。

先生は、経済学部では「経営学総論」、「経営管理総論」及び「演習」を担当され、経済・経営研究科の博士前期課程では「経営管理研究」及び「経営管理研究演習」を、博士後期課程では「経営管理と組織特別演習」及び「経営管理と組織研究指導」を担当されました。

学会活動では、日本経営学会、組織学会、日本ベンチャー学会、経営戦略学会に所属され精力的で多彩な研究活動を展開されました。研究業績は、『現代経営管理論』等の著書や多数の共著、学術論文に結実しています。

また、社会活動、地域貢献では、群馬県地方最低賃金審議会委員、会長を始めとして、群馬県、市の各種委員、会長を歴任されています。その功労に対して、平成12年11月には労働大臣表彰、平成14年10月には群馬県功労者の表彰を受けていられます。

先生は、『『経営学』は管理と組織の研究である。人間は様々な協働を作ってきた。協働であるところには、管理と組織の問題が存在している。管理は組織の形成、維持、存続、発展を研究するものである』という視点から多彩な研究を続けられてきました。具体的には、リーダーシップ論、モチベーション論、意思決定論、コミュニケーション論を中心に研究され、組織発展、変革論として統合した業績を数々あげられています。

教育の面では、先生の温厚な性格と親身な指導が慕われ、サークルや運動部のリーダーが、先生の演習に参加しています。ご退職後も特認教授として学生指導をお願いすることになりますが、我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しています。

三浦達司先生は、昭和41年に大阪工業大学を卒業され、早稲田大学大学院理工学研究科修士課程、同博士課程（単位取得満期退学）で、生産工学、経営管理論を専攻されました。昭和54年4月より高崎経済大学経済学部経営学科講師として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は29年という長きにわたり、旺盛で実践的な研究活動と厳しい教育活動を努められ、また、評議員、経営学科長、就職委員長、等を歴任され、大学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

先生は経済学部では「生産管理」、「経営工学論」、「演習」等を担当されました。学会活動では日本経営工学会、日本IE協会に所属され精力的で実践的な

研究活動を展開されました。また、日本機械工業連合会、日本食品機械工業会の各種委員会委員及び委員長（主査）を歴任され、毎年のように報告書、研究報告書をまとめられてきました。その成果が32に及び編著、共著に結実しています。さらに、50年5月には第4回日本IE文献賞、52年5月には第21回日本規格協会文献賞を受賞し、日本食品工業会より、各種の表彰と感謝状を受賞しています。その他、高崎市の各種委員を歴任されています。

以上のように、先生は、社会的なニーズに応えた生産管理や経営工学の多面的で実践的な産学共同の研究活動を展開されました。その研究活動と教育に結びつけ、産学共同に基づく教育における高崎経済大学における先駆的な存在であり、それらを通じて多くの人材を育てられました。先生が育てられた産学共同の取り組みを発展させることが、今後の高崎経済大学での課題だと思います。ご退職後も特認教授として学生指導をお願いすることになりますが、我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しています。

石井満先生は、群馬県立高崎高校を卒業され、昭和41年に東京理科大学を卒業され、同大学院修士課程で統計学を専攻されました。修士課程修了後、54年4月より高崎経済大学経済学部専任講師として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は27年という長きにわたり、旺盛な研究活動ときめ細かな教育に努められ、また、学生部長、附属情報センター所長、学生委員長を歴任され、大学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

とくに、学生委員長、学生部長としてきめ細かな学生指導を行うとともに、学生に係わる諸問題を的確に対応・解決されてきました。そのことによって、大学運営がスムーズに行われ、この間の大学発展の土台を作られました。さらに、情報委員会から附属情報センターの移行期において所長とした今日の情報センターの基礎を築かれました。先生の大学での様々な貢献に改めて深く感謝を致します。

先生は経済学部では「統計学」と「オペレーションリサーチ」、「演習」を担当され、大学院地域政策研究科では「調査と統計特論」、経済・経営研究科では「数量分析基礎」及び「数量分析演習」を担当されました。学会活動ではオペレーションリサーチ学会、日本統計学会、日本応用統計学会等、7つの学会

に所属し、精力的で着実な研究活動を展開されました。その成果は、『統計技術とその理論』『多変量解析』の単著と2つの共著、26本の学術論文に結実しています。

社会活動・地域貢献では農林水産省、経済企画庁、自衛隊、群馬県、高崎市の各種委員を歴任され、その活動によって地域社会において尊敬を集めています。

先生の主な研究テーマは「多変量解析による倒産理論の研究」及び「GI/G/(many server)型 Queue 理論の研究」であります。社会科学を専攻する人間には、高度の内容であります。数量分析を経営学の分野への積極的に応用されています。経済学部における数少ない統計、数量分析の研究者として貴重な存在でした。

ご退職後は、群馬県内の大学において経営、教育の両面で携わると聞いておりますが、同時に非常勤講師として学生指導をお願いすることになります。今後も我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。先生の益々のご発展を心から祈念しています。

石井伸男先生は、東京都立大学附属高校を卒業され、昭和42年に都立大学人文学部を卒業され、都立大学大学院人文科学研究科修士課程、同博士課程（単位取得満期退学）で、哲学を専攻されました。昭和57年4月より高崎経済大学経済学部助教授として採用され、平成20年3月を持ちまして経済学部を定年でご退職されることになりました。在職年数は26年という長きにわたり、旺盛でアカデミック研究活動と人間味あふれる教育活動を努められ、また、経済学部長、附属図書館長、附属情報センター所長、評議員等を歴任され、大学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてきました。先生、本当に長い間ありがとうございました。

とくに、先生は、附属図書館長として図書館運営の改善にご尽力されました。また、第2代附属情報センター所長として、情報センターの基礎を築かれました。さらに、経済学部長として、様々な課題を的確に解決するとともに学部改革に取り組みられました。先生の大学での様々な貢献に改めて深く感謝を致します。

先生は経済学部では「近代社会哲学」、「現代社会哲学」、「哲学」、「社会科学基礎論」、「演習」、「外書講読」を担当され、地域政策学部では「哲学基礎」、「近代社会思想史」を、経済・経営研究科の前期課程では「社会哲学研究」、「社会哲学演習」、後期課程では「社会哲学特別演習」、「社会哲学研究指導」を

担当されました。学会活動では、日本哲学会、社会思想史学会、唯物論研究協会等7つの学会に所属し、精力的で着実な研究活動を展開されました。研究成果は『社会意識の構造』『転形期における知識人の闘い方—蘇る花田清輝』、『マルクスにおけるヘーゲル問題』の3冊の単著、4冊の編著、17冊の共著、36本の学術論文、研究ノート、6種の翻訳と多数にのぼっています。

先生の研究テーマは「近現代社会の全体構造を体系的に把握する論理」を明らかにすることであり、その中間総括が著書『マルクスにおけるヘーゲル問題』であります。さらに、先生の研究は社会意識という問題領域の研究さらには社会意識形成における知識人の役割に及んでいる。今後も、「90年代からの世界の変貌を視野に入れて、アーレント、ハーバーマス、ロールズ等を踏まえた、市民的公共性の意義」を明らかにしようとしている。研究意欲がますます旺盛であり、今後の成果が期待されます。先生は、温厚な性格とともに沈着冷静な分析力と判断力をもっておられ、それらが研究・教育活動、学内運営に反映されていました。ご退職後も非常勤講師として学生指導をお願いすることになりますが、我が大学の良き相談役、アドバイザーとして宜しくご教示を賜れば幸いです。今後は、健康に留意され、ご研究と教育を発展されることを心から祈念しています。